

## 現代の風潮と伝統を掛け合わせた着物とは何か

3年2組9番	児玉陽鞠
3年3組4番	上田美宏
3年3組18番	田川百花
3年4組22番	西尾野花
3年5組3番	乾仁花
3年5組12番	加々良璃音

Keyword: 「着物」「伝統衣装」「現代」「後世」「SDGs」

## 1. はじめに

私たちは、和服の歴史や伝統文化、現代との違いなどについて興味をもった。興味をもったきっかけは、街中で着物を着ている人を見て、見た目の綺麗さに魅力や珍しさを感じたからだ。普段着ることがないからこそ、特に着物特有のデザインや質、素材、着物の刺繍や染色の華やかさと、小物や羽織などの種類の多さに魅力を感じた。

こういった魅力を知り、後世に伝えることで着物の衰退を止められるのではないかと考えた。着物はデザインの美しさと着物の持ち合わせる伝統から、成人式や卒業式などの伝統行事に欠かせないものとなっている。その一方、私服として着用するのは珍しいことから人からの視線を浴びたり、一式揃えるために費用がかかったりしてしまうという課題もある。実際に着物で出かけた時、周囲の視線を浴び居心地の悪さを感じた。

こういった魅力と課題から、着物の良さを生かすためにどんなことができるか、また、着物が着られていた時代の歴史などを調べて現代と比較し、着物が着られなくなってきた背景を知ること、着物の衰退に対して私達にできることはないか考えた。これが私たちの研究動機である。

## 2. 序論

私たちは、着物について研究をするにあたって、私たちの研究内容をより明確にするために先行文献を読んだ。文献では、女子大生を対象として着物の自由な装いについてどのように考えるかに関するアンケートを行っていた。

「着物の装い方について」より行われたアンケートでは、女子大生が日常の着物の装いを自由な発想でコーディネートすることに対し、どのように捉えているかを具体化することが目的である。「自由な発想の装い」とは、洋服のコーディネートに用いるアイテムや小物を使用した装いのことである。(p33) 文献内での18歳から22歳の学生に対するアンケート(図1~図5)により、9割以上が自由な装いを肯定的に受容しているとわかった。(p32,33) (着物の着装に関する新たな概念について—女子大学生を対象とした調査より—)

ここで私達は学生の装いに対する意見に着目した。

「着物がより身近に感じられるようになると思う」「自分が持っている洋服やアクセサリも活用できるので、非常に魅力を感じた」「着物はフォーマルなものと認識されているので、洋服のようにコーディネートを楽しめる衣服ということを多くの人を知る機会になって良い」(p33) (着物の着装に関する新たな概念について—女子大学生を対象とした調査より—)

このことから、着物の装いの新しい概念は、女子大学生に好意的に受けられており、この概念を浸透させていくことは着物の継承につながると考えられる。そこで私達は着物をレンタルし、自

分の好きな着こなしをして観光をすることなども、SNSで発信し、主に若者の目に留まる機会になるため着物の衰退を止める効果があると考えた。しかし、自由な発想で着物を着ることに対して否定的、または取り入れることに積極的でない回答もあることが分かった。

「伝統的な着装が好きな方にどう思われるか分からないので、実際に着るのは不安」「難易度が高く、街中を歩くには少し勇気が必要だと思う」「日本の和服の魅力が伝統的な装いの方が伝わりやすいと思った」などである。(p34)(着物の着装に関する新たな概念について—女子大学生を対象とした調査より—)

現代風な装いに寄せていくと伝統というものがなくなり、今までの着物を継いできた人達からの否定的な意見があるとわかった。伝統と流行の狭間で着る人が減少しているという課題があると私達は考えた。それについて別の文献ではこう述べられている。

伝統とは多義的なものを入れ込める流動的な概念であることが理解出来る。この「伝統」の中に色々な立場の人が意図的に、無意識的に様々な「価値観」を入れようとする。この「価値観」は何らかの過去を継承することへのリスペクトが関わっている。ただし、伝統に入れ込まれた「価値観」は、他の人の共感を得られなければ客観的価値にならないし、経済的価値には転化しない。(着物の着装に関する新たな概念について—女子大学生を対象とした調査より—)

これらを受けて私たちは現代の風潮と伝統を掛け合わせた着物とは何かという問いを立てた。また、着物を着ている人が少ないのは、着物を着たいと思う人が少ないからではないかという仮説を元にアンケートをした。

### 3. 本論

私たちは仮説を立証するために、奈良県立国際高校三年生128名を対象にアンケートを実施した。アンケート内容は着物に対する興味や印象、着物の着付けや着用経験などである。着物に対しての興味・印象について、今までに着物に触れたことがあるかという問いに「着たことがある」と答えた人が71%、「着たことがない」と答えた人は29%であった。さらに着たことがあると答えた人にいつ、どのような場面で着たか調査したところ、「七五三」「式典」「観光」という意見が多くあげられた。続いて、着物に対してどのような印象があるかの問いに対しての回答では「綺麗で上品」「伝統であり日本の象徴」「特別感がある」という良い印象に対して、「動きにくい」「着にくい」「値段が高い」「着付けが大変」「暑そう」「目立ちたくない」といった否定的な意見もあり、賛否両論であった。これらを踏まえて今後着物を着たいと思うかの問いに対して、82%の学生が「着たい」と答え、18%の学生が「着たくない」と回答した。このことから着物を残すことには需要があることが分かった。

また、現代風にアレンジされた着物と、伝統的な着物とでは、「現代風のものに着たい」という人が22%であるのに対し、「伝統的なものに着たい」と答えた人が78%とより多く、現代に染まりすぎない伝統的な着物を伝えることも必要だと分かった。しかし、自分自身で着付けをすることができるかという項目では、96%もの学生が「いいえ」と答え、着付けをすることができる人はわずか4%という結果であった。つまり、需要はあるが着物に関する情報が足りていないが故に着用率が低下していることが伺える。

これらを受けて私たちは、着物の情報を発信するために企業が現在どのような取り組みを行っているか知るために、「株式会社やまと」の実店舗である「きものやまと」へ赴き取材を行った。客層は若い人から年配の人まで幅広いということが分かり、用途は観光や式典であった。「株式会社やまと」では若者にも着物に興味をもってもらい、身近に感じてもらうという目的から「なでしこ」というブランドが設立されており、その取り組みの中で着物を普段着として着るために、ファッション

ン化、レースやパールなどの洋風なパーツと組み合わせさせた着物や、ベレー帽と合わせてコーデを組むなどのカジュアル化した着物作りが行われている。その中でも今日多く着られているのがカーディガンである。和洋折衷で現代でもあまり目立つことが無くなり、また、洋服と同様体温調節も可能なため着やすくなるのではないかと感じた。マジックテープで簡単に帯付けができ、苦しくなったときは調節することも可能なワンタッチ帯やポリエステルや綿で作られた洗濯可能な商品が販売されていることも分かった。実際に店舗で着付けを行って頂いたが約5分で簡単に着ることが可能であった。こういった商品は価格・着やすさという点で手に入れやすく、学生などの若者にも着物を手にとってもらい良い取り組みだと言える。

これらの活動を通して、着物を私服として着る人が昔と比べて減少しているのは主に4つの課題によるものだと考察した。1つ目が着付けできる人の減少、2つ目が普段着から特別なものへと転換、3つ目が着ようとする人がいない、4つ目が現代チックな着物に否定的な人がいるということである。これらの課題解決案は、着物の現状を伝え、現代的な着物と伝統的な着物に限らず先程述べたような着付けの簡単な着物など、着物についての様々な情報を広めていくことだ。

情報収集する中で企業で取り組まれているいくつかの活動について知った。「株式会社やまと」では1時間500円で着付けレッスンが行われている。また、他の企業では現在普段着となっている洋服と融合し簡単に着物を身につけることができるようなイタリアの紳士ブランドブリーオーニとコラボされていたり、シャネルやルイヴィトンのインテリアに採用されている企業が多く存在するなど国内に収まらない活動も行われていることを知った。それに加え様々な企業で取り組みが行われているにも関わらず、情報があまり認知されていないことも分かった。

縦につながる交流会などでの発表では、同学年だけでなく他学年にも、着付けが楽になるような工夫をした帯や若者に人気の小物や着物やまとでの取り組みなど、様々な情報を発信した。発表を聞いて、帯や小物、取り組みについて興味を持つ人も多く、これから着物を着たいと思うようになった人もいた。そのことから、最近ではSNSでの発信などで多くの人に伝えることができるが、こうした着物の長所を直接伝えることも着物の衰退を止めることに貢献できると考える。

アンケートや取材を通してこのような様々な取り組みを行い着物を残すことで私たちはSDGs12番の「つくる責任つかう責任」に貢献できると考える。GUやUNIQLO、H&Mなどの最新の流行を取り入れながら大量生産し、安く販売する業態であるファストファッションは安くて品質も良いため多くの人がよく利用するはずだ。しかしファストファッションは大量生産・大量消費・廃棄などによってCO2の排出量が増え、環境に悪影響がでるという課題が挙げられている。だが着物だと、寿命が100年と長く着ることができるため、大量生産・大量廃棄を防ぎCO2を削減し、環境にも良い取り組みになると考えた。

#### 4. 結論

着物の衰退を止めることによって、伝統を残すだけでなく、SDGsにも貢献できることがわかった。私達は、現代の風潮と伝統を掛け合わせた着物とは着付けが簡単になった着物であると結論づけた。今までの着物は着付けの手順が複雑であり、これは既に論じた通り、着る人が減少する原因でもあった。また、装いについては状況によって変化することが分かった。本来、成人式などの式典で着られていた着物だが、私服として着る場合はレースやパールなどの装飾を施しても問題は無い。着物の伝統的な着こなしと華やかに装飾をした着こなしのどちらも魅力がある。着こなし方やマナーなどの情報を伝えていくことで着物の良さに気づいて貰えるであろう。これらの活動が未来へ残すことに繋がるのではないだろうか。

#### 5. 終わりに

私達はこれらの活動を通して着物を着る人が減少している理由やどのような着物が人気か、またその着物を伝える方法についてを探究してきた。現代の着物は伝統と流行のバランスを取るのが難しいと思う。しかしファッションとして、伝統として楽しむどちらの着物の姿も大切にしたい

いと我々は思う。これからも様々な情報を発信していく事で、着物を未来に届けることが出来ると信じている。

#### 6. 参考文献・出典

田中淑江, 高橋由子『着物の着装に関する新たな概念について:女子大学生を対象とした調査より』最終閲覧日2023年11月20日

[https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwi05bHgve2CAxUONt4KHa\\_AA7cQFnoECAgQAQ&url=https%3A%2F%2Fkyoritsu.repo.nii.ac.jp%2Frecord%2F3538%2Ffiles%2F%25E5%25AE%25B6%25E6%2594%25BF%25E5%25AD%25A6%25E9%2583%25A8%25E7%25B4%2580%25E8%25A6%2581%25E7%25AC%25AC68\\_3tanaka.pdf&usg=AOvVaw0PNDnY6m0qUT38wPdAo9OZ&opi=89978449](https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwi05bHgve2CAxUONt4KHa_AA7cQFnoECAgQAQ&url=https%3A%2F%2Fkyoritsu.repo.nii.ac.jp%2Frecord%2F3538%2Ffiles%2F%25E5%25AE%25B6%25E6%2594%25BF%25E5%25AD%25A6%25E9%2583%25A8%25E7%25B4%2580%25E8%25A6%2581%25E7%25AC%25AC68_3tanaka.pdf&usg=AOvVaw0PNDnY6m0qUT38wPdAo9OZ&opi=89978449)